

政務活動に係る活動報告書

会 派 名	孝山会
活 動 項 目	先進地視察・研修会開催・ 研修会参加 ・その他（ ）
年 月 日	令和 6 年 2 月 6 日
参 加 者 名	川崎朋巳・高橋要市・大沢芳朋・小松正和・木村泰之
視 察（ 研 修 ） 地	京都府京都市
目 的	大規模災害の被災地の現状や課題を学ぶとともに、防災や減災のあり方について理解を深める
調査（研修）項目等	1.「自治体の防災・減災マネジメント（基礎編）」 2.「実例からみる防災対策における議会・議員の役割（実践編）」
概 要	令和 6 年 1 月 1 日、能登半島地震が発生。住宅の下敷きなどの直接死が多かったことや過酷な避難生活の実態などを確認。地震災害のボトルネックは弱い木造住宅と、木造住宅密集市街地であり、住宅耐震化が最も大切なことである。 高齢化社会が進み、要介護者や障がい者が多く住む社会であり、自分自身で避難できない人も多く、個別避難計画の策定が重要である。 大災害は 30 年間程度の一定期間に集中することが歴史上多くみられる。現代も、東日本大震災をはじめとする地震が継続しており、いつ新たな大災害が発生してもおかしくない。
所 感	板橋区で危機管理担当部長や議会事務局長を務めた講師が自身の業務や被災地視察の経験に基づく講義を聞くことで、災害発生時の課題、災害時の地方議会や議員のあり方、大規模災害が発生した場合に議会全体としてどのように対応すべきか、あらかじめ取り決めや規定を策定しておくことの重要性などを深く考えさせられた。また、自助や共助の重要性を改めて感じられた研修であった。